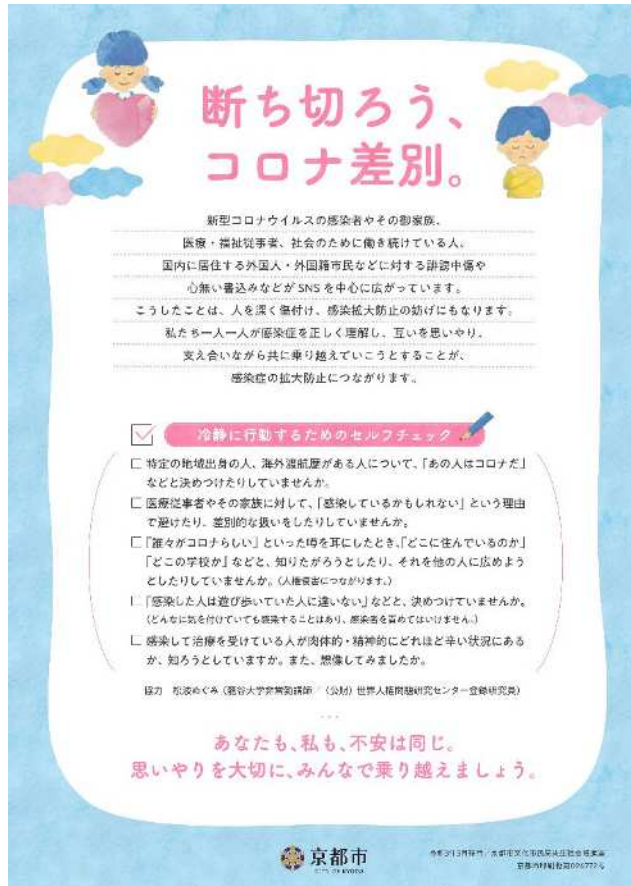
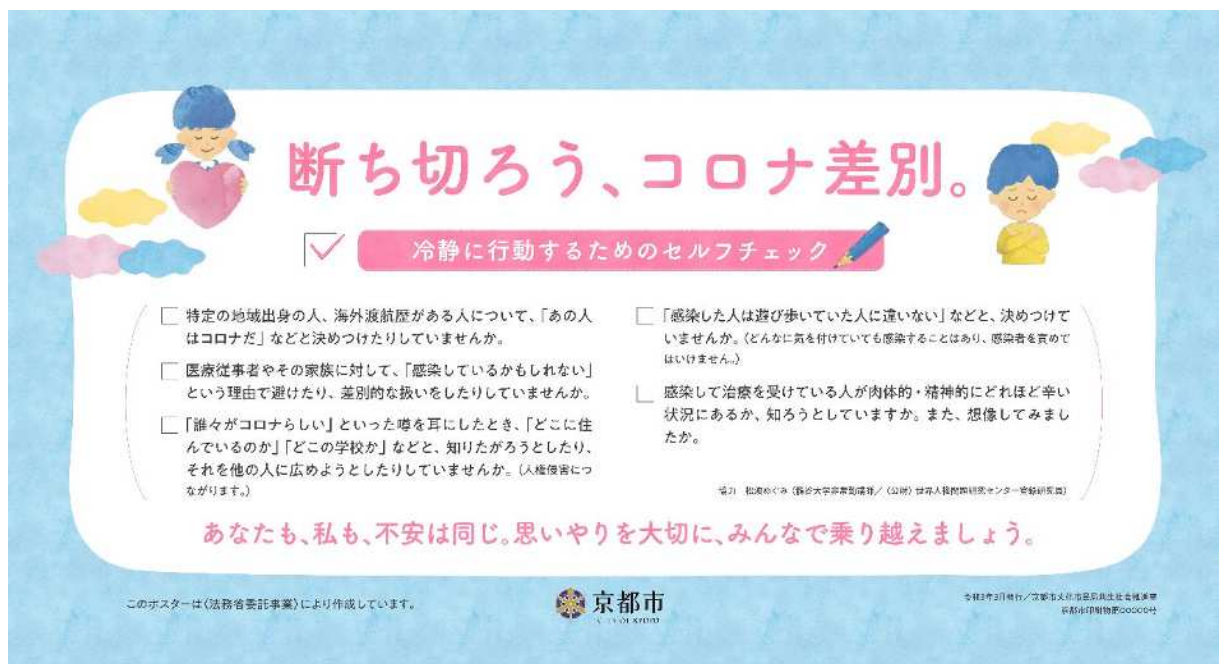


◆チラシ・ポスター（令和3年3月1日～）



◆京都市営地下鉄 地下鉄広告（令和3年3月1日～）



新型コロナ 誹謗中傷はやめて！ その言葉、あなたが言われたら？

誰もが感染する可能性があります。お互いを思いやる気持ちで、コロナ禍を共に乗り越えましょう。

傷ついたルミさん編

- 1** ルミさんは中学2年生。ある日、同じ部活の
コウタ君の体調が悪そうなのに気付きました。



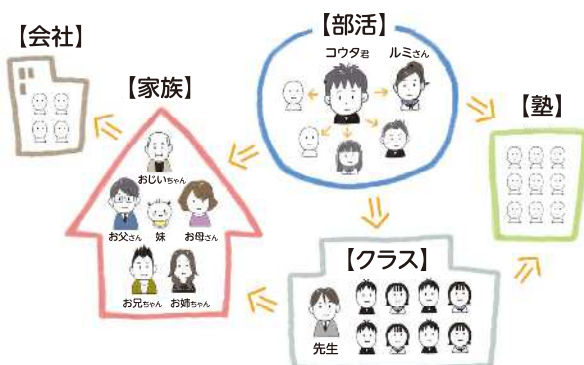
コウタ君は普段から頑張り屋さん。
この日も、少し無理して練習に参加。

- 2** 数日後、コウタ君は発熱で学校を休みました。
その頃には、体調を崩した部員もちらほら。



コウタ君はPCR検査の結果、陽性が判明。
複数の部員も軽症ながら陽性となりました。

- 3** 家族やクラスの仲間も濃厚接触者となるなど、
影響が広がりました。



幸い、部員たちは早期に回復し、
数週間後には部活も再開。しかし、心ない声も...

- 4** ネットで色々書かれているのを見たルミさん。
こんな言葉に負けたくないと思っています。



他の人が感染した時には、自分は言いたくない。
言われた気持ちは痛いほどわかるから。

※これは、京都市内を想定した物語です。新型コロナウイルス感染症は、発症直後が最もウイルス量が多く、感染を広げやすいと言われています。無理せず、慎重な行動を。

11/1~

発熱症状などのある方は、地域の診療所・かかりつけ医に電話でご相談ください

※ 休日・夜間や、かかりつけ医のいない方は、☎ 075-414-5487



京都市
CITY OF KYOTO

京都市新型コロナウイルス感染症対策本部
(事務局：防災危機管理室 075-222-3211)

発行：令和2年10月／京都市総合企画局市長公室広報担当／京都市印刷物 第02245号

新型コロナ対策が疎かになっていませんか？

食事中以外のマスクなど、飲食店でもお互いの心配りで楽しく安全なひと時を。なお、大人数、長時間、深夜に及ぶ会食等は引き続きお控えください。

お店もお客さんも共にがんばろう編

1 シンイチさんは飲食店のオーナー。



コストもかけて、感染拡大防止対策を進めてきましたが…

2 そんな中、久しぶりにやってきた近所のご夫婦。喜んだシンイチさん。



でも、ご夫婦はマスクをしていません。万が一のことがあればみんな困ることに…

3 何か事情があるのかな？失礼かも？ そう思いながらも予備のマスクをご夫婦に渡しました。



二人は快くマスクをつけてくれました。

4 次の日、あのご夫婦が新品のマスクを持って来てくれました。



お店も、お客さんも、**対策**してお互い**安心**！

※これは、京都市内を想定した物語です。誰もが感染する可能性があります。感染された方や医療関係者等への誹謗中傷はやめましょう。

飲食店を利用する皆様へ

感染拡大予防ガイドラインを遵守している店舗をご利用ください。



「京都市新型コロナあんしん追跡サービス」をご活用ください。

京都市新型コロナあんしん追跡サービス

検索

京都市
CITY OF KYOTO

京都市新型コロナウイルス感染症対策本部
(事務局：防災危機管理室 075-222-3211)

発行：令和2年9月
京都市総合企画局市長公室広報担当
京都市印刷物 第02282号

新型コロナ感染拡大防止

「黙食」にご協力を!

食事中は静かに、会話はマスク越しに。安心の輪も新しいコミュニケーションも広がります。

新しいコミュニケーション!? 編

- 1 ある日のお昼前、イサムさんは近所のラーメン屋さんへ。親子連れの先客がいましたが、店内はとても静かです。



店内には、SNSでも話題になった「黙食」のポスター。

- 2 ラーメンが来ると子どもたちは一口食べ、「いいね」のサイン。父親も笑顔で頷きます。



なるほどこれが「黙食」か。いいね!とイサムさん。

- 3 出てきたラーメンを食べ、イサムさんも「いいね」のサイン。お店の人も笑顔で返してくれました。



静かに楽しんだ食事は、とてもおいしく感じました。

- 4 できるところで、できることから一つずつ。



※ 各地の飲食店が取り組んでおられる「黙食」に京都市も共感。推奨しています。お店もお客さんも協力して、お互い安心な環境をつくっていきましょう。

緊急事態宣言発出中は、生活や健康の維持のために必要な場合を除き、不要不急の外出自粛をお願いします。



京都市
CITY OF KYOTO

京都市新型コロナウイルス感染症対策本部
(事務局：防災危機管理室 075-222-3211)

発行：令和3年2月 / 京都市総合企画局市長公室広報担当 / 京都市印刷物 第02246号

12月3～9日は障害者週間

誰もが安心して暮らせるまちへ

新しい生活スタイルと障害のある方の暮らし

障害のある方の中には、「新しい生活スタイル」の実践が難しい方がいます。

例えば、マスクの着用。脳の障害や感覚過敏など、さまざまな原因で、マスクを着けると肌に痛みを感じたり、気分が悪くなったりと、体に異変が生じてしまうことがあります。

外出時には、当事者の方々もできる限りの感染防止対策に取り組みますが、周囲からは、マスクをしていないことで誤解されたり、心無い批判を受けることも。

この他にも、日常生活のあらゆる場面で、障害の特性や程度により、さまざまな困り事が発生しています。

当事者からは、こんな声も

マスクを着けていないと、厳しい目で見られるので、怖くて外出できなくなった（発達障害）

マスクで口元が見えず、相手の話が分からないため、人と会うのがおっくうになった（聴覚障害）



障害によって、困り事はさまざま

知的・発達障害

- 感覚過敏により、マスクが肌に触れると痛みを感じたり、気分が悪くなったりする。



- 人との距離感をつかむことが苦手で、身体的距離をとることが難しい。

- 状況の変化を理解することが難しく、これまでと異なる状況に混乱し、普通に行ってきた食事や入浴までできなくなってしまう。

聴覚障害

- マスクで口の動きや表情が読み取れないため、相手の話していることが分からず、「コミュニケーション」がとれない。
- 電話での相談窓口が増えたが、利用することができない。
- オンラインの催しが増えたが、字幕対応していないと、参加することができない。



視覚障害

- 安全な移動のために手引きが必要だが、密接が避けられないため、声を掛けてくれる人が減った。
- レジに並ぶときに、前後の間隔を空ける目印が分からないため、人に近づき過ぎることがある。
- 接触感染が心配だが、手に取って大きさを確認しないと、どんな商品が分からない。



肢体障害

- 手が不自由なため、マスクの着脱やアルコール消毒の動作が難しい。
- 車いすでは届かない場所に、消毒液が置かれていることがある。
- 車いすで外出中に、段差や坂道で手助けをお願いしたいが、頼みづらい。



マスクを着けたくても着けられない人がいることを知っていますか。
新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴い、新しい生活スタイルの実践が当たり前となった今、日常生活の中で新たな課題に直面し、困っている人がいます。その困り事を知り、一人一人ができることを考えてみませんか。

問合せ 障害保健福祉推進室 ☎ 222・4161 FAX 251・2940



市長からの便り

心のバリアフリーを
目指して

困っている人を見かけたら、声を掛けてみませんか。感染症を防ぐために、身体的距離の確保が求められているウイズコロナ社会。誰かに支援を求めたくても、気軽に声を掛けづらい。これは、コロナ禍がもたらした新たな「障壁」といえます。こんなときだからこそ、心の距離を近づけ、支え合うことが大切

です。障害のある方の困り事は、その人の障害だけではなく、社会の「障壁」にも原因があるのではないのでしょうか。全ての人が暮らしやすい社会を実現するためには、その「障壁」を取り除く、私たち一人一人の「配慮」が求められています。

が増える時期。新しい生活スタイルの徹底とともに、事情があつて実践が難しい方への配慮も心掛けながら過ごしていただく。障害のある人もない人も、全ての人が違いを認め合い、支え合うまちづくりを共に進めてまいりましょう。

京都市長 門川 大作

こんな場面に遭遇したら

その1

マスクを着けていない人がいる…

マスクを着けていない人を見たら、一概に否定するのではなく、「何か事情があるのかも」と想像してみてください。障害の特性や事情を理解し、思いやりの心を持って過ごしましょう。

その2

白杖はくじょうを持っている方が困っている様子…

街中で視覚障害のある方が困っていたら、まずは近づいて自分が誰なのかを名乗り、「何かお手伝いしましょうか」などの声を掛けましょう。買い物の補助など、サポートできることがあるかもしれません。

その3

耳が聞こえないようで、話が伝わらない…

身振りや筆談を用いて、コミュニケーションをとりましょう。フェイスシールドなどを用いて口元が見えるようにしたり、難聴の方には、ゆっくりと大きな声で伝えるのも有効です。

大切なことは、相手を思いやり、歩み寄る姿勢。ちょっとした配慮が、障害のある方の負担を軽くすることにつながります。

支援を必要とする「サイン」があります

ヘルプマーク

義足や難病、妊娠初期など、外見からは分からなくても、配慮や支援を必要としている方が身に着けるマーク。人によって必要な手助けは違うため、マークを着けた人が困っていたら、まずは声を掛けてみましょう。



ヘルプカード

障害のある方などが携帯し、困ったときに周囲の人に見せることで、必要な支援を受けやすくするカード。カードを見せられたら、記載されている障害の特性や病気に関することなどを参考に支援しましょう。



※ヘルプマーク・ヘルプカードは、区役所・支所などで配布中。

こんな意思表示も

マスク着用が困難な方は、着けられない理由を周囲の人に知らせる意思表示カードを身に付けている場合もあります。



感覚過敏研究所が作成したカード

障害のある方々が

感染症対策に貢献

ほつとはあとプロジェクト

市内の障害者就労支援事業所が、感染症拡大防止に必要な衛生用品であるポリガウンを製作し、福祉現場などに届ける取り組み。現時点で、410着を15カ所の施設に届ける予定です。



ご協力をお願いします！

ポリガウン製作に必要なポリ袋や養生テープの寄付を受け付け中。少量でも、製作する事業所へ取り次ぎします。

※申し込みなどの詳細はホームページで紹介。

ほつとはあとプロジェクト 寄付 検索

違いを認め合い
自分らしく
生きられるまちに—

